

広報広聴特別委員会 会議録

開催年月日	平成29年2月21日（第10回）			
開催の場所	湖西市役所 委員会室			
開閉会時刻 並びに宣告	開会	午前 9時30分	委員長	馬場 衛
	閉会	午後 0時00分	委員長	馬場 衛
出席並びに 欠席議員 出席 9名 欠席 0名 〔凡例〕 ○は出席を示す ▲は欠席を示す	氏名	出欠	氏名	出欠
	楠 浩幸	○	馬場 衛	○
	渡辺 貢	○	中村 博行	○
	吉田 建二	○	神谷 里枝	○
	加藤 弘己	○		
	荻野 利明	○		
	豊田 一仁	○		
説明のため 出席した者の 職・氏名				
職務のため 出席した者の 職・氏名	次 長	尾崎 修	書 記	三浦 梨紗
会議に付した事件	別 紙 の と お り			
会議の経過	別 紙 の と お り			

広報広聴特別委員会会議録

平成29年2月21日（火）

湖西市役所 委員会室

湖西市議会

[午前9時30分 開会]

○渡辺副委員長 それでは、おはようございます。3月議会の最中で、なかなかこういう話をする時間がとれないかと思えますけれども、行事は終わったものの、反省というのは非常に大事で、まとめと次はどうするかということ、少し話し合っておいたほうがいいのではないかなというふうな気がいたしますので、考えるといろいろ時間も必要な内容かと思えますけれども、きょうはまた午前中、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは馬場委員長、よろしくお願ひします。

○馬場委員長 どうも皆さん、おはようございます。通常の10時の開会より30分早く開会させていただきました。昨日は大変、強風が吹き荒れたというか、大きな被害は出ていないんですけれども、そんな中でインフルエンザ等のお話しも聞いております。ぜひ健康には注意をしていただきたいと思います。それでは着座にて進行させていただきます。よろしくお願ひいたします。

それではただいまから、第10回広報広聴特別委員会を開会いたします。

議事に入りますが、発言は必ず挙手の上、指名に基づきマイクのスイッチを入れ御発言ください。

本日の予定につきましては、お手元の次第のとおりでございます。それでは議事に入らせていただきます。

まず、1点目の高校生との意見交換会について、本日は反省という中で進めさせていただきたいと思えます。ひとつ今回の高校生との意見交換会を、大分日がたってしまったんですが、振り返っていただき、その御意見をいただいて、また次のほうへと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

今回の湖西高校生との意見交換会について、やったのは結構いいマスコミ等の話題ともなっておりますし、広報広聴特別委員会としても、いい意見交換会ができたのではないかなと考えております。皆様方から反省と御意見をいただければというふうに考えておりますのでよろしくお願ひいたします。どなたかありましたらお願ひいたします。

楠委員、どうぞ。

○楠委員 きれいに冊子にまとめていただいているんですけれども、意見交換の内容が記載されているんですけれども、ここからやはり我々が、彼ら、彼女らがどういうことを思い、どういうことを期待しているのかなというところを、少し絞り込んでまとめる。グラフにしてもいいだろうし、文言にしてもいいだろうし、この場でちょっとワークをするのは、また別の機会でも結構なんですけれども、ここから先をまとめて、また学校にもレスをしてあげないといけないと思うものですから、その作業が必要になるのではないかなというふうに思いました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。このまま出しただけではなく、少し学校のほうへも回答というか、成果についても御報告できればということで御意見をいただきました。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょう。一言ずつ、御意見を皆さんにいただければと。感想を含めていただけると、大変ありがたいと思えますけれども。豊田委員、どうぞ。

○豊田委員 高校生との意見交換ができたことは非常によかったと思えます。生徒たちも一生懸命準備してくれてたんだという印象を持ちましたし、一生懸命な意見表明をさせていただけたということで、ありがたかったと感じております。ただ、今、楠委員も言われましたように、これをどう生かすか、どちらの方向にこの後、進めるかというのが大きな我々の仕事になるのかなと思えますし、ことしだけで終わるのではなくて、継続的に市内に2校もありますし、毎年というふうな形で継続できればなという希望を持ちます。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。湖西市には2つの高校がありますので、ある程度継続的に進めればというふうな、正副のほうでも少し考えて、この後の今後の方針の中でも少し明らかにして進めていきたいと考えております。ありがとうございます。神谷委員、お願ひします。

○神谷委員 まずは、本当にやってよかったと思えますし、学校側の御協力にも感謝したいと思います。意見交換と

ということだったんですけれども、高校生の子たちも準備をしてきてくれて、簡単明瞭に自分の考えを言ってくれているんですけれども、結構議員サイドが返す答えのほうが長くなってしまって、意見交換というところまではいかなかった。時間もなかったものですから、もう少し高校生さんとやりとりができる時間があってもよかったかなという気はいたしました。

それともう少し時間が欲しいということ。やはり今、豊田委員もおっしゃっていますけれども、今後はこれをもっと発展させていかなければいけないと思っていますし、本会議場へ入ったときの高校生たちの表情を見ていても、できるのであれば高校生議会もやって、それこそ高校生から提言をいただいて、それを当局のほうへ反映させていくという、そういった若者の意見を取り込んでいくストーリーもつくっていったほうが私はいいなと感じました。とにかくこれを議会としても、今後の広報広聴の1つの目玉としてやっていったらいいのではないかと思います。

それともう1点、名札をやってもらったんですけれども、やはり見えなかった。せっかく来て、慌ただしく書いてもらったんだけど、座っていると名札が下で見えなかったの、あそこが1つ反省点かなと思いました。やはりこういうようなもので名前があればいいし、名前がなくてもいいのかもしれないし。ちょっとそんなふうに思いました。

○馬場委員長 ありがとうございます。これからも継続していかなければならないかなと思っています。そんな中で、いろいろ時間の問題とかありますので、検討課題かなというふうに考えております。

それでは、一応一言ずついきますか。吉田委員、いいですか。

○吉田委員 初回にしてはよかったのではないかなと思います。ただ、今後の課題というか目指すところは、去年の夏に京都のほうへみんなで視察に行きましたね。高校生議会、そこまで持って行って、自分たちの思っているようなまちづくりに対する要望とか希望というものを市の当局から答弁してもらう、市長とか部長から答弁してもらう。そういうところまで持っていくと、本当にまちづくりに対して関心が非常に高まるのではないかなと。この間やったのは第一歩だなと。いわゆる議会とか行政というのはどういう仕組みで、どんな関係にあるんだということを、我々との意見交換をやりながら、今後少しでも高校生の勉強してもらえばいいのではないかなというぐあいに思いました。

特に京都のほうへ行ったときには、2つ目の市だったと思うんですけれども、そのときには教育委員会と行政と学校が一体となって事前の勉強会というようなことをやっていたものですから、そういう点では非常に進んでいるなど、そこら辺を参考にしながらやっていきたいなというようなことを、この間の高校生との話し合いでは感じました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。結構、高校生自体にも関心を持ってもらうというか、議会とかまちづくりに、それが一番大事なかなと思います。それでは済みません、荻野委員。

○荻野委員 私も初めてにしては大成功だったなというふうに思います。それと今も話がありましたけれども、やはり高校生の議会というのを開いて、市長も来て、そういう中で子供たちから意見をぶつけてもらうということが必要だなと。まだ、新居高校はやっていませんので、私の母校ですので、ぜひお願いします。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。中村委員。

○中村委員 私は本当にやって、そういうきっかけづくりにはなったと思いますが、高校生もどういうことを言っているのか。こちらから投げかけてある問題だけ出てきた話であって、具体的じゃなくて、何か考え方が感じたままを言ってくれているような部分があるので、もうちょっと議会の仕組みとか、こういうことだよということを、議会をこういうところで、こんなふうにやっていますよということを、まだ続けてやったほうがいいのではないかなと思います。皆さん、いろいろ言われておりますので、継続するということは本当に大変だけれども、行きたいなというふうに思います。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。加藤委員、お願いします。

○加藤委員 今私もこれを見て、どうやって進めていったらいいかなと一番最初に思いました。きょう、どうやって過ごすのかなと思いました。やったことはいいですけども、ただ私も中村委員の意見と同じような感じで、やはり高校生はまだレベルがそこまで行っていない。高校生の中にも、いろいろ言う子もいるし、言わない子もいるし、大人の社会も一緒だなと。だからこの子たちをどういうふうにしていったらいいのかなというふうに、皆さん、物すごく優秀にして議会にめちゃくちゃ興味を持ってもらうというようなことは考えなかったですけども、やってよかったのではないですかね。続けることが大事だなと思います。

○馬場委員長 ありがとうございます。渡辺副委員長さん。

○渡辺副委員長 私もいろいろ考えるところがありましたけれども、初めてなので、こんなレベルならしょうがないのかなというのが率直な感想で、正直言って物足りないという点で、時間がなかったかなと。それから意見交換が深みが時間がないので、そういうことになってしまったんだけど。それと、もう少し高校生も勉強してきてくれるのかなという期待は持っていたんですが、ちょっとその辺の感じは足りなかったなということです。

私は、去年の6月にこのことを想定して、湖西高校の文化祭をのぞいておかなければいけないと思って、6月の文化祭を見に行っただけです。文化祭の展示をずっと見て、「ああ、このレベルかな」というのは正直、率直にそのときに思いました。文化祭の展示内容を見て。そういう点では、今、早稲田大学の先生がシティズン教育というのを、主権者の教育をやらなければならない。教育委員会の側もそうだし、議会の側もやらなければいけないよということを、よく言われているんですけども、そういう点で、そういう教育をやりながら意見も聞くということ、両方やらなければいけないというのは、どなたかおっしゃったけれども、事前にもう少し勉強してもらわないと意見がかみ合わない。意見交換が深化しないという点はあるかなというふうに思いましたので、どういうふうに時間をつくっていけばいいのか、同じようなことをやっていたのではだめだなということで、今後のあり方を少し検討して、次はどうするかということ、ある程度材料を用意して、今度メンバーは組織が変わりますけれども、つないでいかないと。例えば、1年のカリキュラムの中で高校生というのは時間設定があるので、急に言ってもだめなんです。今回もそういう点はあったんですけども、いつごろやるのが一番いいのか。そのための準備はどうしたらいいかということ、この後、少し話をしていかなければいけないのかなと。それと当初、楠委員がおっしゃったけれども、この内容について、もう少しあったことだけを報告するのではなくて、一度お礼を兼ねて、校長、教頭のところへは委員長と一緒にいきたいと思いますが、そういう話が報告できるような材料も、ちょっとつくるといいなというふうに思いました。

もう少し意見を言っていたらいいような事前の勉強をどうするのかという点、それから最終的には高校生議会という目標もあるかと思いますが、なかなか課題は多いなというふうな印象でございます。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。各委員の方々から多くの御意見をいただきました。今回は割かし拙速というか、急にというか、やらなければいけないという思いが先に立って、何とか第1回の高校生との意見交換会ができたわけですが、今皆さん方から御意見をいただいたように時間的な問題、時期的な問題、学校については、それぞれ今副委員長が言われたように、年間予定の中で埋め込むという、当初は事業の中ではなしに別枠でというふうに考えていたんですが、そんな中で少し時間が窮屈になってしまったというのも大きな反省の1つだなと。今回は割かし意見が出しやすいように、事前に身近な問題からテーマを決めて、意見交換の材料にさせていただきました。それでも今の御意見の中でも、なかなか深みまで入っていきなと。もうちょっと掘り下げたところという、意見が欲しかったねというような御意見をいただいております。継続するべきだという御意見は間違いないと思いますので、これから市内にある2つの高校、できれば1年に2つずつぐらいというふうな方向を、皆さん方の御意見をいただきながら、もうちょっと深みまで入っていけるようなところの材料等の掘り起こしとか、いろいろな部分も含めて、これからの検討課題にしていければというふうに考えております。

今回は少なくともマスコミ関係、また高校生の生徒さんたちも多少なりとも議会を通じて、まちづくりについての関心が少しでも理解していただけたのではないかなど。マスコミを使って新聞発表していただいたということは、我々広報広聴特別委員会としても、こういうことをやっているということをPRできたのは、1つの成果になってきているのではないかなど考えております。後は、中身をもうちょっと皆さん方と検討して、次の一歩へ進めていければというふうに考えております。

あと、全体的に時間的な問題、時期的な問題については、進め方としてどうですかね。これは学校としっかり調整をしなければ、なかなか答えとしては出てこないと思いますので、今回も副委員長と湖西高校へ行ったときには、なかなか時期的な問題で、今やるなら、この時期しかないねというふうに限られてきてしまうものですから、その辺のところも事前にしっかりと調整をしていきたいなと考えております。渡辺副委員長どうぞ。

○渡辺副委員長 今からの話し合いの中で、大きく2つに分けたほうが良いと思うんです。1つは、この報告書をもう少し内容を詰めて、よりわかりやすくするという点を話し合うのを1つ。

もう1点は、来年度どうするかということについては、私たちが決められる立場ではないんですけども、実際にやってみた立場として、どうしたらいいのかなどということを提言できるようなことを話し合って、相手があることなものですから、それをもって相手とも事前の打ち合わせもしなければいけないかなと思いますけれども、来年のことを踏まえてどうするかという、大きく2つに分けて話を進めたらどうかと思いますので。

○馬場委員長 ありがとうございます。今、副委員長のほうから、これからの進め方について少し御意見がありました。当面、この意見交換会をまとめていただいておりますので、このまとめについての審議の仕方ですね。湖西高校のほうへも報告を含めお礼を含めて挨拶にも行かなければいけないと思いますので、まとめ方として、今それぞれ3つのテーマに沿って御意見を出していただいたところをまとめてあります。事務局のほうでまとめていただきましたので、これをどういうふうな形にするのか、できれば御意見をいただいて、もう一つ、それぞれに整理してできればというふうに考えておりますけれども。渡辺副委員長。

○渡辺副委員長 私はこの中で、この3つをそれぞれどうやってまとめるかというのは難しいですが、1つは、この後の議会報告会もそうなんですが、自分が言ったことがどう生かされるか。これは最大の関心事だと思うんです。結局、言ったけれども握りつぶされたら、これではもう二度と行きたくないという話になるので、高校生は学年が変わってしまうので、また次の人たちなんですが。聞いていて、私のグループの中で野球部の子供がおりまして、野球部の子供がグラウンドで新高高校と湖西高校が対外試合、成績のいいチームですね。その人たちを呼んで試合をやるということを始めました。ほかから呼ぶとお金がかかるわけですね。お金を父兄が心配してくれているんですけども、父兄の負担が大きいので、それが子供としても申しわけないので、何か応援してもらえませんかという話が出たんです。これは子供のそういう発言を先生が聞いて、「あれはよかった」と、議会に言ったことで、何か道が開けるかもしれないというような印象を先生が言うので、困ったことを言うなと思って聞いていたんですが。私は教育委員会へ行って、こういう発言が高校生と話をする中で出ただけけれども、どうなんだと。サッカーは浜名湖カップというのをやっていて、あれは企業から協賛金を集めてやるんですが、非常にいい形になっていると。あれを見て野球も何とかならないかなということなのかなと思って、教育委員会へどうなんだと。正直言って私は難しいと思うけど、何かいい手はないかねという話をしたら、この話は父兄から市長にも話が通じていると。そういうこともあって、現場のスポーツ推進課長が、できるかどうかは別として、今検討をしているという状況ですという話を聞いたので、その程度の話なら報告できるかと思って、要はこの中で、そういったたぐいの意見というのはどうなのか。そういうのを1つフォローしてあげるというのが必要だなと。

もう1つ思ったのは、随所に出てくるんですが、浜名湖が汚いというんですね、沿岸が。私は浜名湖の沿岸を余り見ることはないんですが、道のりからいってね。言われてみると、多分そうだろうなと思って、一度、議員で浜名湖沿岸をいっぱい歩いてみてはどうか。それで、いろいろなセンセーショナルなことにするには、高校生と一緒に

に歩くとか、新聞記者を呼んで一緒に歩くとか、環境課にも話をするとか、高校生との意見交換の中でこういう動きが出てきたというのは、非常に意味があると思うんですね。例えば、そういうふうな取り扱いを考えていくとか。それはちょっと大げさ過ぎるよというかもしれませんけれども、そういう意見、提案がほかにないのかどうかというのをどうかなと思うんですね。

○馬場委員長 渡辺副委員長のほうから、言って終わりではないし、言ったことに対して形なり意見なり、結果を出せるような形で何か残してあげればというのが、今回の意味があるのではないかなと。今いい提案をいただきました。

野球のほうの関係で言えば、荻野委員もそうだったんですけども、新居高校の野球後援会というのがあるんです。それは一般市民も入って。そういうような形をちゃんと育成していけば、多少は出るんですけどね。新居の高校のほうも、ちょっと今下火になってしまっていますが。方法はいろいろあるかと思いますが、とにかく言った言葉が結果に結びつくような、今大変いい渡辺副委員長の御意見かなと。そういうことによって成果というか、しっかり見えるようになってくるかなと。浜名湖も一回、歩いてみななければいけないかなという感じもしました。ほかにどうでしょうか。まとめも含めて。豊田委員、どうぞ。

○豊田委員 今、渡辺副委員長の提案に啓発されたというような形になるんですけども、私たちが担当した分科会グループでも、通学路の照明の問題が出ていまして、非常に自転車で走っていて暗いということが。今これを拝見したら、ほかでも1つ、2つ同じような点が指摘されているんですね。これなんかは毎日通学している生の声だと思いますので。もし浜名湖のごみというのも大きな課題にはなるんですが、より身近なところということであれば通学路の問題、一応その生徒が言うには、「自治会にもお願いはしているんです」ということを言ってみて、どこのエリアかまでは細かく聞き取れていないんですけども、とりあえず高校生の日々の生活の中での危険ということでの生の声だと思いますので、この辺も取り上げて、何か動きがとれたらなという印象を持ちました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。この意見については、私のところのグループでも出た思いがしております。そういったところで、少し回答を言って終わりではなく、さっき言われたように、少し回答ができて、それこそ危機管理課、都市整備部のほうに投げかけて、また自治会のほうも確認できるような形がとれて、それを回答にできればというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。楠委員どうぞ。

○楠委員 渡辺副委員長や豊田委員のおっしゃるところの、いいことをお返しするというのも、もちろん大切だと思うんですけども、逆にこういう事業というのは、戦略的に議会が望むことだとか、学校が望むというようなところを、主権者教育もそうですよね。主権者教育がどういう方向性でやられているのか。小中学校も主権者教育というのはやられているはずなので、そういった情報も取り入れながら議会の役割だとか、市民の役割というところを、私たちも一度確認をする必要があるのかなというのが1点と、やはり戦略的にやろうとするのであれば、きのうも浜名湖観光圏のシンポジウムへ行かれた議員さんもいらっしゃいますけれども、彼ら、彼女らの目で生まれ育ったいい点というところが、自然がいいよとか、もう少し踏み込んで、どういったところがPRできるのか。もう少し聞き出したようなところもあったりするので、そういったことも、また学校は学校のほうで、こういうことを我々は浜名湖を観光産業としてやりたいということであれば、例えばですよ。そういったところも、また投げかけておいて、次につなげていくというようなまとめ方もあるのではないかなと思います。

以上です。

○馬場委員長 1つのまとめ方の答えを出す部分とか、自慢の部分と残念な部分は結構極端に分かれているところもありますので、そこらも少しまとめの中で分けてというようにすればいいかなと考えております。神谷委員、どうぞ。

○神谷委員 出た意見に対して、どう返していくかということでは、今出ているような意見の考え方もあるかなと思

ったんですけれども、私はやはり、まずはそういったグループ討議で出た意見であって、議会の立場からすると、ある意味、私は模擬高校生議会でも何でも開くという目標を持っておいて、今回出ているような意見を議場で発言していただいて、それに当局側、市長さんに答弁していただいて、じゃあ、この問題は今言ったように通学路が暗い、うちのグループでもありましたよね。湖西中学方面へ帰る子たちが暗いというような声もありましたので、そういったことを実際に行政に生の声として、正式な場所で届けていただいて行政として対応しましょうというか、そういうことで皆さんの税金を使っていくということは、こういう場において決定して実現していくんだよというか、私はそういったことをやっていってもいいのかなという気はしています。なかなか個々の意見に対応していくというのも、ある意味大変だなと思うんですね。

○馬場委員長 大変数多く意見を出されておりますので。

○神谷委員 例えば、新城なんかでも若者議会だったかな。30歳以下、高校生以上の子たちが市長の諮問で集まって、いろいろまちづくりについてやって、実際にそこから出た意見に対して、市長が1,000万円の粋取りを持っていて実現しているんです。公共施設の活用が低いところなんかを、こういうアイデアでやったらどうかということ。そうすると本当の意味において、自分たちが発言していたことが取り上げられるという確実に見えてくるのではないですか。そういった形をとってもらったほうが、もっと自分たちが住んでいるまちに対して関心を持ってもらえるかなと思うものですから、いろいろな静岡県内の中でも高校生議会とかやっているところがありますよね。富士のほうか、どこか向こうでもやっているような気がしたものですから。ちょっといろいろ手段を考えて、「ああ、自分が言った意見が、こうやって段階を経て実現された」とか、取り入れてもらったというふうに見える形です。いったらどうか。私は考えました。

○馬場委員長 なかなか実際の議場でこういった意見を言うというのは、そこまで行くには、まだまだ時間的なハードルは高いかもわかりませんが。将来的にはそこまで行けばいいなというふうには考えますけどね。

○神谷委員 もう実際に18歳から投票権があるわけですよ。時間をかけてやっていくといっても、なかなか年度、年度で生徒も変わってってしまうということにおいてはどうかという気もしないでもないです。

○馬場委員長 先ほどの新城の話ではないけど。湖西モデルが何かつくってもらって、若者の意見を吸収できる場をつくるというのも必要かなと考えますね。市長と直結していれば、物事が早く動くのではないかなと思いますけれども。いかがでしょう、ほかには。加藤委員、どうぞ。

○加藤委員 私は今聞いていて、環境だとか浜名湖をきれいにするというのは、皆さんのためになるので、非常にいいことだと思えますけれども、例えば、先ほど野球とか、いろいろなものに対して補助をくれというようなことは、あれは普通ほかのことでも、いろいろやっても補助なんかないところもいくらかもあるんです。あれは好きなことをやっているんだから、自分らで出せばいいことなので、そこら辺を気をつけないと、たかが年に1回これを聞いただけで何とかしてやるだなんていうのは、それはいいことだけど、余りどうか。一回やったところで、これをすごく分析しちゃって、何かいろいろやるだなんて、そんなことはちょっと。これはたくさんやって、いろいろ聞いてやるならいいよ、日常やって。そんなことより、ほかの人たちもいっぱいやっていることがあるんです。高校生も物すごく大事ですけども。高校生は今、本当に興味があるというのは受験とか、就職だとか、そういうようなことなので、ただこれは感じたことを言っただけで、それでもって議会が「ああ、それは大事なことだ」ということで、大事なことはこの中に物すごく隠れているんですけども、そこら辺を慎重にならないと、稼働だけがなくて大変なんですね。じゃあ、これをどういうふうにまとめて、誰がやるんだというようなことを、もう少し真剣に考えないと。そんな毎年、毎年ね。年1回やっただけで、いろいろやるだなんていうことは非常に審議が足りないと思います。

○馬場委員長 荻野委員、どうぞ。

○荻野委員 今の野球部の問題についてなんですけれども、やはり県立高校である以上、湖西市から補助金を出すと

いうのはできないのでね、基本的に。

○**神谷委員** 部活動後援会に対する補助は出していますよね、両校に80万円ぐらいずつ。

○**荻野委員** うん。それは新居でいうと後援会。

○**神谷委員** 学校の部活動の後援会に対する補助金を、湖西市は80万円ずつだと思いましたけれども、まずは出していますよね。両方出ています。

○**荻野委員** そうじゃなくて、今回、野球部に対して出すというのは、やっぱりちょっと問題だなと思うんですね、県立高校である以上ね。それと、ここに出された意見がいろいろあるんですけども、これはやはり高校生議会を開いて、そこで高校生から市長に対してぶつけてもらう。それがやはり一番手っとり早いのではないかなというふうに思います。

○**馬場委員長** 吉田委員、どうぞ。

○**吉田委員** 私も先ほど発言したときに、視察に行ったときのあれを、今つづりを見ていたら、福知山だったなと思って。そのところはたしか前年度に行政のほうに、市役所のほうへ来てもらって、高校生と意見交換をして勉強会をやったと。その次の年には、今度は議員が学校のほうに行つて意見交換をし、そして行政とはこうだよと、いろいろなことをやった。それで今度はフレッシュ高校生議会というのを開催して、いろいろやったと。要は、まちづくりをやっていくためには、みんなの意見をこうやって行政に反映していく。そういうようなことで、みんなで作っていくんだよというシステムとか、そういうものをしっかり勉強してもらった中で、いろいろな意見はないか。それに対しては市長とか部長が答弁をし、その中から先ほど言った、浜名湖岸が汚いとか、通学路が暗いとか、そういうことがあったら、「じゃあ、みんなで現地を確認しましょうね」というように持っていくと、非常に高校生も行政に対するまちづくりに明るくなってくれるし、それを1つPRすることによって、市民の皆さんも、「ああ、高校生もやっているんだな、議員もやっているんだな」と、いわゆる開かれた議会という、我々の望んでいる広報広聴のほうにも発展してくるのではないかなと思うので、ぜひ僕は、これを1つのスタートラインとして、高校生議会を開催しよう。できるだけ質の高い高校生議会へ持っていくようにどうしていくか。こういうようなことにやっていったらどうかなということを感じます。

以上です。

○**馬場委員長** わかりました。中村委員、どうぞ。

○**中村委員** いろいろ意見はあって、我々議会で、議員であつて、また一市民であるんですが、行政のトップは市長なものですから、行政をどういうふうに市をしていくとか、補助金をつけるとか、そういうことの権限は市長にあるので、市長がどういうふうに判断するかでいろいろ変わってくる問題だと私は思います。そういうことで、我々はこの意見があつたよということを行政に打ち上げて、どう取り上げてくれるかは市長の判断で私は決まっていくと思う。そういう意味では、私はこの意見は、市長のほうにこういう高校生の意見が出ていますよということを打ち上げていって、市長が全体を見た中でどう判断して、これをやるべき。まだおくらせるべき、判断は行政に任せたほうが私はいいのではないかと感じました。我々はそれについては要望を出すんですけども、実際にやる、やらないは市長のほうの案を出す、出さないかに決まってくる話なものですから、そんなふうに私は考えます。

以上です。

○**馬場委員長** 楠委員、いいですか。

○**楠委員** 長くなりそうなんですけれども、高校生との意見交換を、我々湖西市議会がどう捉えて、先ほど戦略という言い方をしたんですけども、やはり若い人たちに政治に関心を持ってもらいたい。人材育成の場だよというふうに捉えるのであれば、人材育成というものの一番手っとり早いのは、成功事例を積み重ねていくということだと思うんです。学校側、生徒側が、ぜひ高校生議会をやってもらいたいというふうに思わせることが、我々の戦略だと思うんですね。そのためには、今回出た意見に対して、渡辺副委員長が一番最初におっしゃったように、私たちが

一緒にできるようなことを、一緒に議会も汗をかきながら、それをまた市長のほうへ提案をしていくとか、一緒に提案をしていくというようなことをすれば、彼ら、彼女たちが言ったことが実際に政治を動かすんだなという成功体験をまずつくらせてやる。そこから、そういうことはまた高校生議会という場で提言してもらうことが、またできるかもしれないよということを自分たちが感じて提案できるようなふうにしていかないと長く続いていかないと、我々の議会としてのスタンスというのもしっかりしておかないと、何をやっているのかなと。パフォーマンスで終わってしまうのかなというようなことを思いましたね。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。各委員の方からそれぞれの立場でいろいろ御議論をいただいて、広報広聴特別委員会が、これから背負う部分、今中村委員もそうですけれども、単に行政に上げるとか、そうではなくて、やはり今楠委員が言われたように、最終的には高校生議会みずからやるよという。まちづくりに関心を持ってというふうなところまで持って行ければ、本当に特別委員会としての意義があるのではないかなと思います。まず、意見を出してできること、余り予算のかからない部分だったら、一緒に浜名湖を歩こうかという、そういったことが単純にできるのではないかなと思いますので、そういった一つ一つの積み重ねで、やはり今の若い高校生にまちづくりに関心を持って、その意見を述べたことによって行政も動く、議会も動くというようなことにつながっていけば、今回の意見交換会の意義もあったことになると思いますし、また継続することによって一步一步違った感じの交換会なり議会ができるのではないかと考えております。

○渡辺副委員長 皆さんのお考えをお聞きして、それぞれ、なるほどなというふうに思います。私も、これをまともを受けてしまって、まじめにやっていたらえらいことだなと思っているんです。思っているので、おっしゃることはよくわかるんです。ただ、何回も校長、教頭と私は打ち合わせをした立場なものですから、高校生の教育というか人材育成、主権者教育という点では、非常に乗り気なんです、向こう側は。私どもの立場としては、それはぜひそういうことでと思うんですが、もう一つは、後の議会報告会にもつながるんですが、やったことをちゃんと受けとめてくれたなという印象を、どこで与えるかなと。言っても聞きっぱなしだと、議会は。それはそれでもいいけれどもということになるかもしれませんが、少しは受けとめてくれたなという印象を伝えられるといいなと。そういうサインが出せるといいなというのがあって、私は申し上げたんですが、丁寧にやるとえらい目に遭うというのが、これはありますので、どこでそのところをとどめていくかということ、最終的には高校生議会をやって、直接当局側にも聞いてもらうというのが必要なことだと思いますので、そこら辺でこれをどうまとめるかというのを、このままではどうかなという点で、ということでもとめていただけると。作業は全員でやるというわけにはいけないと思うので、意見を聞いた上で手直しを、つけ加えるなら、つけ加えることが必要かなと。

○馬場委員長 吉田委員。

○吉田委員 僕は、この間、来たのは3年生だったのかなと思ったら、今聞いてみたら2年生ということですね。そうすると、また来年も続くものだから、この間、あれしてくれて、みんなの意見があった。今、渡辺副委員長の言われるのはよくわかるんです。ですから、その次にまたもう一遍、議員と高校生と2年生と、次の意見交換会をやったときに、この話題を出して、「浜名湖の湖岸は汚いね。通学路もあれだね」と、「じゃあ一遍、我々も現場を見たいので、一緒にあなたたちも歩いてくれると、どこが悪いかあれして、日ごろの観察をしておいて」と、この間、こうやっていただけども、風が吹いてしまったので、ごみがどこかへ飛んでいってしまって、きれいになったとか。こういうようなことがあれば、そういうことの意見交換をやっておいて、それを改善していくには、やはり行政にそのことを訴え、行政のほうにそのことをしっかり開いて実現していくように、高校生議会に持っていくようにしようよというように、1つのステップをつくってやっていくのがいいのではないかなと。そうすると、渡辺副委員長が言われたように、やはり自分たちの言った意見は、それなりに受けとめてくれたんだと。これは非常に大事だと思います。ですからそういうことで、ぜひつなげていくように、第2回目の意見交換会をまずやっていく。目指すところは高校

生議会、そのところで行政に訴え、そしてそれを少しでも改善に結びつけていく。これがそうすると、いわゆる開かれた議会だとか、市民の声が行政に届くという、1つの見本といいますか、そういうことになっていくのではないかなと思います。済みません。

○馬場委員長 中村委員、どうぞ。

○中村委員 私も似たような話なんだけど、さっきの私の言い方が言葉足らずであったところもあるので、いけないが、実際に出た問題を我々の中で、実情が本当にどうだということを見に行くとかして、実際のことを確認したほうが私はいいのではないかと。余りにもひどいなら、それは急いでやらなければいけないし、それほど急ぐことではなかったら、おくらせてもいいかもわからないけれども、そういう打ち上げてくれたことを確認するということは、我々議員でもできる話ではないかなというふうに思いますので、そういう行動をとるのも一案かなというふうに思います。

○馬場委員長 今回の意見交換会に対しての御意見をいただきました。きょうは、このまとめをやらなければいけませんので、これからのやり方についてとか、いろいろな部分について今お話をいただきましたので、先ほど、副委員長のほうからもありましたとおり、意見交換会の回答ができるような部分、これはキャッチボールしているんですよ。意見だけは並べてあるものですから。回答ができる、先ほどの街灯の関係でも、自治会要望も出ているというような話で、これは当局のほうへも話ができるというふうなところもありますので、まとめ方として、鏡の部分と目次1ページ目、これについてはこの形でいいかなと思いますので、意見交換の部分について、それぞれA、B、Cのグループ分けをした中で羅列をしているものですから、そこを少し副委員長と私と事務局を交えて、もうちょっとまとめていきたいなど。そんな形でまとめさせていただければと考えております。写真についても、1カ所か2カ所入れればというふうに思っています。

それともう一つは、少しキャッチボールした回答等もあると思いますので、今言った浜名湖の汚れの問題等についても、できれば一度現場確認をしていますというような話も、その中へ入れればというふうに考えておりますが。報告書のまとめとしては、そんな感じでいきたいと思うんですが、いかがでしょうね。ほかに何か御意見をいただければあれですけども。加藤委員、どうぞ。

○加藤委員 具体的に何をやるかわからないですね。正副委員長でいろいろもう一遍見てまとめるということなんですか。それとも今回は、たくさん出た意見、例えば、環境、浜名湖をきれいにしましょうと、それから街灯をたくさんつけましょうと、こういう問題が出ましたよと。こういう問題に対して議会はちょっとやっていくよというふうで片づけるのか、それとも今、正副委員長でいろいろ考えて何かやってくれるのか、そこら辺はどうなんですか。

○馬場委員長 そこら辺については、意見のまとめを班別に分かれて、順番が残念という部分でやっているものから、その辺をもうちょっと整理しようかなというふうに思っているんですけどね。

○渡辺副委員長 私も委員長がまとめるって、どうやってまとめるのかと思って、加藤委員がいい意見を言ってくれたので、余り生々しくやるのはいかがかなと思うので、議会として、この中でこういうふうを受けとめましたと。浜名湖が汚れているということは、これから議会としてもよく見ていかなければいけないと。関心を持っていかなければいけないとか、そういうぼやっとしたような表現になってしまうけれども、議会として高校生のこれを通じて、こういうふうを受けとめましたというようなことを二、三行さらっと書いて、これはこれでよしとして。

○吉田委員 ものをやらなければだめだと思う。書くだけでは。実際に動かなければ。浜名湖が汚かったら我々が見に行って、高校生を待っていないでもいいだよ。街路灯だってわかるんだから、確かにそうだなと。それだから、こういうふうにやりましょうというふうにやれば。できても、できなくても。そういうふうに一生懸命動けば。

○渡辺副委員長 そこまでやれば大したものだと思うけど、もし皆さん、それなら浜名湖を歩く、それから暗いところはどこだというのを、もう少し詳しく聞いて、そこを歩くと。現場を見るということは、すぐ行政につながりではなくて、私らも見ましたよと。見てあそこはひどいで、少し何とかしてはどうかということを行政に伝えるというのが、

私たちの仕事だと思うので、高校生がこうやって言っていたよというなら、誰でもできてしまうので、やはり現場を見るというのは、把握するということが大事だと思うので、そこはやりましたということが書ければ、こんないいことはないですけども、皆さんの御意見を聞きたい。

○馬場委員長 吉田委員、どうぞ。

○吉田委員 現場を確認するということが非常に大事なことだと思うんです。それをいつの時点でやるかということだと思うんですね。高校生がぜひこういうことであれだから、議会のほうでもそこを改善してほしいと。例えば、街灯が少ないで明るくしてほしいよだとか、浜名湖が物すごい汚いで何とかあれしてほしいと常々思っていますよと、そういう意見ならば、我々はしっかり受けとめて、じゃあ一遍、現場を見てみましょうかとなるけれども、こう思います。いわゆる残念に思うだとか何かと、こういうことだから、こういうようなことを、ぜひいい改善に持っていこうよとか、そこら辺はどんな実態なんですかという、まず僕は第2回目の意見交換会をやって、この間のこれをベースに、それを話をするときに、ちょっと現場を見ておくかという、そういう意味合いで現場を確認するならば僕はいいと思うけれども、現場を確認して、じゃあ議会として行政のほうに、あそここのところに街灯をつけてやったほうがいいじゃないかなとか、どうのこうのと働きかけるというのは、僕も実際に自分の議員活動をやっているんですけど、議員に言えば何とか行政のほうに話を通じけると。議員に頼めばと、いや、そうじゃないよと。自治会を通じて言いなさいよと。それを後押しするのを僕はまた言わせていただくよとか。とにかく議員に言えば何でもかんでもという、それはちょっと走り過ぎとか、行き過ぎだよと。やっぱりみんなで考えて、みんなでやっぺいこうよというように持っていかないと、議員はあくまでも行政と何かのお使いとか、そういうことになってしまうと、本来の行政の仕組みというのがあれになってしまう。それを高校生に誤解されてしまうことになりかねないなと思いますので、面倒くさいかもしれないけれども、僕は一回やって、その次に解決するためにどうやっていこうねと。こういう制度があって、高校生議会に持っていってもいいし、その前に緊急であるならば、行政のほうにも我々として議員の立場で今度は動きますよというふうに、しっかりそこを話し合いで意見交換した中でやっていきたいなというのを私は感じます。

○馬場委員長 楠委員、どうぞ。

○楠委員 何でこういう意見が出てくるかということ、議員は話をしなければいけないと思うんですよ。今街灯の話だったら自治会へとか、高校生が知るわけがない。一般の市民だって知らないですよ。その仕組みを確認して、伝えて、彼ら、彼女たちにも、ただ浜松から通っている子たちが鷺津駅まで歩いてくるのに、暗いから自治会長に言っぺいこうというのはあり得ないですね。これは学校に言ってもらって、学校から役所に言っぺいこうというようなパイプをつくってあげる。我々は端的に拙速に動くだけではなくて、そういう仕組みというのを伝えるためにも、一緒に行動してあげて、「ああ、そういうことなんだな」ということを感じてもらえる場を、あえてつくる必要があるのではないかなと思います。

以上です。

○馬場委員長 湖西高校は自治会はやっているだね。自治会とは、この間やっぺいような意見があったと思うんですけども。

○神谷委員 表鷺津の自治会とも交流の場とか、意見交換の場を持ったり、それと学校側から多分、ここが暗いとかという要望は上がってきていると思うんです。その問題ではなくて、私はまずこれをどうまとめるかということについては、今、ここの場で初めて皆さん、意見交換会をやった感想が出たわけじゃないですか。ですので、それをまずはまとめて、今言うように一緒に現場確認したらどうかという意見もあるし、最終的にはひとりよがりですけども、皆さんやはりステップアップを図って、高校生議会を目指したいということら辺が、何となくうすら見えたかなと思うものですから、今回開いたまとめとしては、議会としてはそういう点に至ったということで、まずは報告手法をまとめて、湖西高校さんのほうに提示をしていく。

やはり本当に、今回来てくださった子が2年生ですので、3年生でまたのんびりしていれば、またその子たちも受験勉強で忙しくなっていくという、そういったことも逆に仕掛けていく議会サイドがいろいろな情報を得て、自分たちも高めた中で、本当に吉田委員がさっきから言っていますように、もう一度、ワンクッション置いて次のステップに上げたらどうか。そういったことを、この広報広聴特別委員会でもんでいったらどうなのでしょう。まずは、私は今出た意見を整理していただいて、最終的には高校生議会を開く、または実際に動いて改善できるところは改善したらどうかという意見もあるんですけども、そういった整理の仕方ではないかなと思います。

○馬場委員長 ありがとうございます。最終的な今回の高校生との意見交換会、今皆さんから御意見をいただいた形を少しまとめさせていただいて、神谷委員が言われたように、最終的には高校生議会までいければというふうな思いがしております。湖西高校についてはそれでいいかなと思います。

それと、吉田委員からも言われましたけれども、次の意見交換会までに、その場で聞くためには、僕は1回は現場検証というか、全員で行かなくても、どこどこは誰々が担当として、一回見るだけ見てきてよ。ただ聞いた意見だけで進むのではなくて、やはり現場確認も多少は大事だと。それをすぐ行政に届ける、届けないは別問題として、言われたことの確認自体は、ある程度は意見交換会で次にするにしても、確認していくこと自体は大事なかなと思います。それでまた、「ああ、そうだね。我々も見てきたけど、確かに汚いね」という意見で、そういった話ができればいいことなものですから。

○吉田委員 済みません。僕は非常にこだわっているように感じるかわからないけれども、この議会の高校生のあれというのは、18歳に選挙権が引き下げられたと。いわゆるまちづくりに対して高校生にも関心を持ってもらいたい。こういうようなことがポイントだと思うんですよ。それでいくと、今言ったように海岸が汚いよ。現場を確認すると。これもいいと思います。ですけれども、現場を確認して、「ああ、汚いから、あそこの家、掃除するように」と担当課のほうに言って、ささっとやるのがあれではなくして、その汚いのを改善していくには、ただそこにあるごみを綺麗にするのではなくして、汚したのは誰なのと、我々市民じゃないの。そうしたら市民へのそういう啓発活動もやっていかなければいけないね。それからごみを片づけるように、そういうことも小まめにやらなければいけないね。そういう行政の仕組みとか何かのときに、自分たちが意見を言ってやっていくというのものもある程度勉強してもらおうと。それも一緒になって、我々議員もやるよということになっていくことになるよ、さっきから言っているけれども、とにかく意見交換をして、そういうシステムを議会というものがありますよ。そういうことでやって、まちづくりをやっていきましょう。こういうぐあいにやっていくということが、非常に大事ではないかなと。

そこへいくと、本当に福知山の資料を持っていないけれども、何回も何回もやって、教育委員会、行政、そういう立場がみんなでもって高校生議会議会を支えていると。こういうところをぜひ学びながら、これを今回のスタートラインにしていきたいなというのを強く感じます。済みません。

○馬場委員長 そういうことも今回のまとめの中にも、はい。

○吉田委員 ぜひ、まとめは、そういうことに持っていくための検討をしようと、ここのところで申し合わせたよ。確認し合ったということができれば、僕は一番まとめの形としてはいいじゃないかなと自分は思っています。そういうところに強引に持っていくわけではないですけどね。

○馬場委員長 そうすれば意見交換が深まってくると思いますので、キャッチボールもかなりね。原因からいろいろな部分が理解できるようになってくると思います。わかりました。はい。

○渡辺副委員長 これをどうやってまとめるかなと、今心配していて、神谷委員がいい意見を言ってくれたもので、これはこれとして、委員長と学校へ行くのに、これだけ持っていくではちょっと寂しいなという思いをしていたんですが、いいことをおっしゃってくれたので、きょう出た内容の主なものだけピックアップして、どうともとれるような表現になりますけれども、そういうふうなまとめをつけて、議会はこのことをちゃんと受けとめていますよ。ただ、作業はこれからですよということで、すぐやるということ、また時間がかかってしまうので、とりあえずきょう

の意見を主なものだけピックアップして、それにつけ加えて報告書という形にして、やることはこれからのingでやっていきますと。そんなふうなものでまとめさせてもらおうと、何となくまとまるかなというふうに思いました。

○馬場委員長 では、まとめの部分だけ少し確認をさせていただきます。今、渡辺副委員長のほうからもお話があったとおり、きょう皆さん方からいただいた御意見を少し集約した中で、この高校生の意見も含め、ちょっと整理をさせていただいて、湖西高校のほうへ報告書としてできるような形を副委員長、委員長のほうで作業をさせていただきたいなと思っております。

それで報告する前には、一度皆さん方に御提示させていただいて、確認をしていただき、それを湖西高校のほうへお持ちしたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでよろしいでしょうか。いいですか。

○豊田委員 きょういただいた資料というのは、あくまで我々の内部資料というふうに受けとめますので、あれなんですけど、報告書の形としては、今、吉田委員も確認されていましたが、湖西高校の2年生の30名だということ。それからA、B、C、Dに各何名生徒が配置されたかということまで記録としては残していただきたいなと思います。

それからグループによって1、2、3の分け方の認識がばらばらになってしまっているのかなという印象を持ちましたし、記入の方法も要望に対する回答を載せたのか、要望に対して議論の展開が記載されているのか。その辺がちょっと読み取れない部分がありますので、この辺のところは統一していただいたほうがいいのかという気がしております。まとめていただく段階で、その辺も配慮していただければありがたいなと思いますのでお願いいたします。

○馬場委員長 わかりました。ありがとうございます。今、豊田委員が言われたように、少しその辺のところも確認をして、まとめさせていただきたいと思います。ほかにはよろしいですか。加藤委員、どうぞ。

○加藤委員 それはわかったんですけど、今後どういうふうにやっていくかと。市にはいつも要求していますね。いつまでに何をどういうふうにするんだと。書くだけだったら誰でも書ける。だけど、こういう形に持っていきたいよというふうなことまでやらないと、「ああ、何だ。聞いただけか」ということになってしまうので。書くことはすぐ書ける。コンサルなんかはいろいろなことをペッペッと書いてしまうから、こういう報告書なんかはね。それではいけないので、いつまでにどういうふうにするんだと。無責任だけど、来年またメンバーが全部かわってしまって、また最初からやると。ちゃんと引き継ぐとか、そういうようなことをやらないと、言うのは簡単ですよ。高校生というやって、スケジュール的なものとか、そういうようなことをしっかり考えないと、いい加減な報告書になってしまうので、責任ある報告書をつくらないといけません。部内ではないので、高校生なんだから、純真なので。ちょっと、そういう希望でございます。必ずしもこういうこととは思いませんけど。

○馬場委員長 わかりました。はい。

○神谷委員 そういった意見はわかるんですけども、そうしますと、これをいつまでに湖西高校のほうへ報告書として出すか。まずそこから決めて、自分たちも今そういうふうなスケジュールを組んでという、この委員会でも本当にもまないとできないことですよ。だから、そこまでを今回のこの報告書に載せるかどうかの判断も必要になりますよね。

○馬場委員長 このレジュメの後に今後の方針ということで、少し載せてあるんですけども、とにかくこの報告書をまず意見をいただいて、まとめ方ということで、今の段階で。これからどうしようかというのは、この後の方針ということで、皆さんから御意見をいただいて、いつごろまでに、当面今お話しいただきましたので、報告書はきょう御意見をいただいて、3月議会があした、あさってから始まってきますので、何とか一般質問が終わって、副委員長、どうですかね。その後ぐらいで。議会議中、3月23日はちょっと厳しいですかね。

○神谷委員 私は、本当に定例会が始まりますよね。自分たちも予算から何からいろいろやらなければいけないということが目前にありますので、まずはいつまでに高校生議会を開きますというところまでは、申しわけないですが、

ちょっとお時間をいただいて検討するというので、最終的にはそこまで持っていきたいよという、本当にほんわりとした記載でもいいかなと私は感じます。性急にやって、次に広報広聴特別委員会があるか、ないかも現時点わからない状況の中ですね。

○渡辺副委員長 整理する意味で、まずやらなければならないことは、今度の議会だよりは紙面の1面に写真だけ載ります。これは当初から学校側にも報告書はまとめられないし、次の発行は7月になってしまうので、写真だけにしてくださいよと。ただ、これはホームページにはアップしますという話はしてあるんですね。ホームページにアップすることは当然のことながら、事前に学校へも言わなければいけないということで、これを持っていかなければいけないと思っているんですが、持っていく内容がこれでいいのかなということがあったので、相談しているんですが、私はこれはこれで、あと議会のフォローがないので、議会のフォローとしては、きょうの意見を主なことだけ書いて、議会としてはこう受けとめていますと。いつやるかとか、どうするかというのは、具体的なことは書けない。とても間に合わないし、やる時間もないということで、それをまとめてホームページへ載せる、それと高校へも報告をする。まずこれはやって、後のことは3月議会が終わらないとどうしようもないなという感じがするので、3月議会が終わって、また相談するんですが、ただ、次の話になりますけれども、来年のことでどうしたらいいかということ、ある程度ちょっと意見をもらっておいて、学校に投げかけておかないと、学校もスケジュールの予定があるのですね。投げかけをして、その投げかけたことを、どういう組織になるか知らないけど、次にちゃんと引き渡しをすると。それが私どもの作業、責任かなと思いますので、そんなふうに、きょう話を聞いていて思ったんですが、いかがでございましょうか。

○馬場委員長 神谷委員、どうですか。

○神谷委員 私は今の渡辺副委員長の考え方でいいと思います。

○馬場委員長 今、渡辺副委員長のほうから言われた形の中で、作業のほうは進めさせていただきたいと思っております。時間のほうが少し、本当は20分ぐらいで高校生議会のほうは終わる予定だったのですが、まとめが悪くて申しわけありません。それでは、報告書のまとめについては、先ほど言われたような形でさせていただきます。

あと、3月議会が終わった後ぐらいで、何とかまとめればいかなと考えておりますので、時間がありますので、できれば年度内中、厳しいかもわかりませんが、頑張っていきたいなと思っております。

高校生議会のほうについては、この後の方針等については、休憩後少しお話をさせていただければと考えておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、ただいまから50分まで休憩させていただきます。

午前10時40分 休憩

午前10時50分 再開

○馬場委員長 それでは休憩を解いて、会議を進めさせていただきます。

先ほどの高校生との意見交換会の続きが少しありますけれども、今後のあり方、提案等につきましては、まだ新居高校等も含め、時期や方法・内容についても少し検討した中で進めさせていただきたいなど。広報広聴特別委員会といたしましても、この後については、先ほど御意見をいただきましたが、湖西高校については、次年度は今回やりました2年生が3年生になるということで、その辺のところも含めて学校のほうとも今回の報告書をあわせて、少し調整に伺っていきたいなど。新居高校につきましては、今回初めての訪問になろうかと思っておりますけれども、事前に少し校長先生にはお話をさせていただいておりますので、また時期や方法についても、新しいメンバーになるかもわかりませんが、そこで少し調整や、事前に内容等についてもお話だけはさせていただきたいと思っておりますので、そんな方法で高校生との意見交換会については進めさせていただきたいと考えております。

それでは次に、議会報告会についてを……。はい。

○渡辺副委員長 ちょこっとだけ時間も無いと思うので、5分でもいいですけども、意見があったら教えていただきたいんですが、近いうちに報告へ学校のほうへ行くのですが、来年どうしましょうかという話に当然なるんですね。皆さんは継続的にやるべきだということで、大体そういうことだろうと思うので、できれば本年度も新居高校をどうするかという話があったんですが、一遍に2つやるのはえらいので、まず1校にしましょうということにしたんですが、来年はこれで1年準備を立てていくと、2校を対象にということになるかと思うんですが。そのやり方は、きょうの雰囲気では高校生議会を一遍にやるというのは無理だから、もう一回ぐらいやってはどうかということなので、それでいけば同じようなやり方でやるのか、あるいは主催者教育をもっとしっかりするためには、議会のことを理解してもらった上で、あるいはまちについてよく見つめてもらうという時間をとった上で意見交換をやらないと、薄っぺらいものになってしまうということがあって、ほかの市の事例を見ると、高校生議会というやり方もあるし、意見交換会の前に各学校でいろいろ勉強してもらって、こっちも出かける場合もありますけれども、勉強をもらって、その上で意見交換をもらって、代表者が3人とか4人、意見発表をする。議員の前、生徒の前で。意見発表した内容について、それをもとに意見交換をすると。題材をちゃんとつくった上でやると、こういうステップ、時間はかかりますけどね、面倒だし、というのも1つの方法なのかなと、ことしやった経験を踏まえるとですね。どこまでそういう作業ができるかという心配もありますけれども、その辺のところも踏まえて、学校のほうに時期の問題、夏休みがいいのか、ことしみたいな1、2月がいいのか、秋がいいのかという、学校のスケジュールの問題もあるので、そこらも探りを入れて、決めるのはもちろんできませんけれども、というふうなことを一回やっておかなければいけないと思うものですから、もし私どもが高校と打ち合わせを、本当の下話ですけども、する際に、ここはちょっと考えておいてよというものがあつたら御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○馬場委員長 次の高校生との意見交換会の今、副委員長のほうから御提案がありましたけれども、皆さんのほうから少し御意見があれば。あわせて下準備の中でやっていかなければいけないかなと思うんですけども。方向的には今の副委員長のお考えの形でいいかなと考えておりますが。豊田委員。

○豊田委員 私はぜひやるべきだと。新居、湖西、市内に2校ありますので、2校を対象に話を持ちかけるべきだと思います。

それから当面、広く浅くの働きかけにならざるを得ないと思います。ですからテーマを絞って深く事前に勉強してもらうというのでも確かに必要な要素ですけども、まず、議会と意見交換をする場があるんだということを知っていただく。行事の中に組み込んでいただくということで開催できれば十分ではないかなと。今回の経験も我々もあるわけですから、準備していただいた方にはまことに申しわけないんですけども、準備にそんなに膨大な手間がかかるということではないと思います。受け入れ側は大変だと思いますけれども。やっぱり我々としては、そこから出てきたものを、きょうの場のようにどうまとめるか、どう生かすかということを検討するのが本筋になっていくと思いますので、時期的にはそんなにこだわらなくても、先方のスケジュールに合わせざるを得ないし、ただ、まとめる時間のとれるようなタイミングができるのであればありがたいなと思いますけれども。特に、今ここにいる9名全員が非常によかった、必要性があるということで認識していれば、次年度に向けても議会として取り組んでいただくだけの提案なりはできると思いますので、ぜひ、湖西市議会としてやるんだというのが、この委員会の結論ということで先方に投げかけていくべきではないかなというふうに思います。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。ぜひ、やるべきというふうな力強いお言葉をいただきました。

ほかにはいかがですか。そんな形では進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 それでは、そのような方向で進めさせていただきたいと思います。

次に、議会報告会についてを議題とさせていただきます。今回、開催日程、意見交換会のグループ分け等、新しい

試みをしたわけでございますが、そんな中で全体の反省というか、議会報告会についての御意見を各委員の方々からいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

開催の2会場しかできなかったという部分とグループ分け、いろいろな御意見が出ております。「よかった」という意見と、「何でこういうふうにしたんだ」というふうな御意見もありましたけれども、そこらも含めて何か感じたことで結構ですので、御意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。楠委員、どうぞ。

○楠委員 今回初めて意見交換というようなやり方で議会報告会を行ったんですけども、意見を拝聴するという意味では非常によかったのかなというものもあったんですけども、まだやはり1つのグループで20人弱でしたか、まだ多いのかなというふうに思います。やはり声の大きい人がだーっと言って、なかなか言い出しにくかったりするような方もいらっしゃったものですから。もう少し細かい単位でできるようになればいいのかなという。エリアも今回は2回だったものですから。回数をふやすのか、どういうふうなやり方をするのかありますけれども、もう少し小規模の人数で意見交換ができればいいなというふうに思いました。

以上です。

○馬場委員長 今回、座談会のところまでは、ちょっといかなかったですけども、過去に比べれば、随分小グループになって、意見交換は多少声も出しやすい雰囲気はあったかなというふうに思います。御意見の中でも、そういった言葉が出ておりましたので。ほかにはいかがでしょうか。吉田委員、どうぞ。

○吉田委員 私も進行を分科会のほうでやらせていただきましたけれども、時間がちょっと短かったなど。もう少し長くてもいいなということを感じたという点と、できれば自分は意見が述べられたら、「今こういうような御意見があったけれども、ほかの方は今の御意見に対して、どう思いますか」というように、みんなのところに振ってやろうかなと思ったんですけども、そんな時間は持てなかったです。むしろ聞いて、それに対してこっち側の我々3人の議員が交代で答えてやって、聞くことで手いっぱいだったなど。ですから、発言していただいた方も4人とか5人程度ぐらいで、少なかったなと思います。

それとあと1つ、これは自分の反省事項ですけども、ちょっと長くしゃべる方がいて、それをどこで途中話を切っただけであれしていくかという、テクニックを自分は勉強しておかなければいけないなど。非常にそんな点は自分としては反省しています。

以上です。

○馬場委員長 本当になかなか1人2分とか3分で切れないところもあるのでね、内容によっては。大変進行係としては苦労したかなというふうに思いますけれども。ありがとうございます。神谷委員、どうぞ。

○神谷委員 おぼとのほうで担当させていただきましたけれども、こちらスケジュールどおりには進まない発言があって、そこでもう時間が15分ぐらいとられてしまったので、意見交換の時間が本当に30分弱しかなくて、今、吉田委員が言われたとおりのですね。4人ぐらいしか発言できなかったです。

後は福祉は入所待ち児童のことを報告させていただいたんですが、参加者のまず年齢層、女性を見ましても、直面している方がいらっしゃらないぐらいで、余りその報告内容については質問も意見も出なかったという。ですので、そこら辺がもっと市民の意見を求めていくということに対しては、こちらがテーマをもっと絞って意見交換、報告とやっていくと今のよう形になるんでしょうけれども、去年ちょっと市民会館についてという、こちらがテーマを決めて意見交換をやると、本当にたくさんの意見が出たものですから、ちょっとやはり参加者の年齢層、男女の比率等を考えたときに難しさを感じました。

それと本当に、1人の人がずっとしゃべっていて、いろいろなことを引っ張り出してきて、そうすると正直言って、最初の全体会で出た意見に対して、「あんな高度なことを言われると、もう自分たちはわからないから」と言って帰ってしまった。せっかく女性に来ていただいたのに帰ってしまったというのもありますので、やはり、より多くの方に意見を言っていただくということに、もう少し自分たちも知識を高めて取り組んだほうがいいのかという気は

しました。

○馬場委員長 テーマを決める難しさというのを感じますね。特に入所待ち児童というのは、見た限り関係ない人ばかりで、そこで意見を出してといっても、なかなか難しかったですけどね。そういった部分は、また違うところへ出向いてって委員会ですね。そういった方向も、これからは必要かなと思いますけどね。

○神谷委員 本当にそう思いましたね。だから今回やって、やはり意見交換をする対象団体等を絞ってやっていかないと、ちぐはぐな意見交換になってしまうのは実感しました。

○馬場委員長 これからの報告会なり、意見交換会の参考になったなと感じましたけどね。ありがとうございます。

ほかにいかがですか。日程的に当初、「何で2日に絞ったのか」というふうな御意見もあったんですが、我々特別委員会ですらいろいろ検討した結果、今回はこうやろうというふうなことを、なかなか市民側としては受け入れていただけない部分もあろうかなと思いましたけれども。中村委員、どうですか。

○中村委員 私は補助みたいな形でやりましたが、意見はそれなりに出てきたんですけど、本当に話がこれにかみ合ったかな、どうかなというのは心配なところがあったのと、議員が委員会から1人ずつしか出ていないので、その人の回答する内容がいいのかなというか、そんなふうに分かたず自分自身もその中に入りますが、常日ごろちゃんとしていないと回答ができないのではないかなというふうな感じがしました。いずれにしても意見を言う人は大体決まっている人が言っているのが事実だと思います。それでいろいろ提案をしてくれる人もありましたが、どこまでどういうふうに答えていいのかということも、自分では判断ができにくかった部分もあったことは事実です。意見を聞く意味ではないと思いますが、なかなか3人だと心細い点がありました。

以上です。

○馬場委員長 楠委員、どうぞ。

○楠委員 基本的に御意見を伺う場なので、議員としての回答というのは、個人としての回答というのとはあり得ないと思うんですね。なので、議会もしくは委員会で話し合っただけで合意ができていないこと以外は伝えてはいけないと思うんですね。そういった意味では、まだ協議していないので返せませんというような対応は、私のほうはしましたけどね。

○馬場委員長 中村委員。

○中村委員 私のほうの能力がなかったもので、そういう形になったのかもわかりませんが、そういう意味では認識が甘かった点があるかと思います。

○馬場委員長 加藤委員、どうぞ。

○加藤委員 多分、中村委員がおっしゃったのは、防災対策の件だと思うんですけど、やはり細かな時期的なものとか、いろいろなことが議員でも全部把握できないので、それはしょうがなかったかなと思います。あれをしゃべるには本当になんかの勉強をしていかないといけないし、危機管理課なんかの話全部聞いていかないと、なかなかできないことなので、申しわけなかったなと思っています。一般的なことなら、これは議員としてお話しすることではないけどというようなことは言えるんですけども、技術的なこととか、方向的なこととか、そういうようなことでえらい御迷惑をかけて申しわけなかったです。

○中村委員 別に個々にそういう話ではなくて、自分の感じたままを言っただけですので、別に負担とか、そんなふうには思いません。

○馬場委員長 今回、グループ分けを3つにして、各常任委員会の3つのテーマをそれぞれやっただけ。本来なら常任委員会ごとのテーマを1つずつやったほうが答えとして出しやすかったのかなというのもあろうかと思うんです。グループ分けをするときにね。それこそ入所待ち児童、総務は悪いけど2つ。その辺のところはどうですかね、皆さんの感じた中で、グループ分け、それと委員会分けということでは、なかなか難しいかもわかりませんがね。今回、こうやって3つのグループに分けて、各常任委員会の3常任委員会へ入っていただいて、それぞれ意見交換会をしていただいたんですけども、実際に携わって。先ほどの入所待ちについては、年齢層が確かに対象外の人が多かったと

いう。意見の出しようがないですよ。豊田委員、どうぞ。

○**豊田委員** 非常に悩ましい問題ですよ。今ちょっと拝見したら、市民の方の御意見にも、「何で勝手に3グループに分けるんだ」という御意見もあるようですし、それから、「いや、いや、分けてくれてよかった」という御意見もあるようです。一番今回気になったのが、おぼとでやりましたときに、大会議室で背中合わせに2グループがありまして、なかなか聞き取れないんですよ。お互いに声が邪魔してしまっていて。場合によっては後ろ側でやっているグループの声がかんかん響いてくるとか。そういった御指摘も入っていましたが。だからキャパシティの関係で、どうしても人数制約をせざるを得ないので、とりあえず今回の形はとらざるを得ないのかなと。その中で逆に言ったら、今回は手間を省くために、このグループ、このグループとやっていますけれども、それをしないで、どうぞ御自由に、この部屋と、この部屋と、この部屋がありますと。定員は何名ずつになりますので、移動してくださいというような方法もとり得たのかなという、その手間を省くために今回の手法をやってみて、1つの結果が出ていますので、いろいろ試行錯誤をしていかざるを得ないのではないかなと思います。ただ、グループごとにテーマを1つに絞るとするのは、1つの方法かもしれませんが、そうすると、なかなかそこへ行きづらい方が多くなりますので、そこでどんな話題を出しても結構ですよ。ただ、答えられる範囲は限度があります。承りますという姿勢でいけば、いかようにでも対応できるのではないかなという気がいたしております。

以上です。

○**馬場委員長** 荻野委員、いかがですか。

○**荻野委員** やり方としては、3つに分かれてやったのはよかったなというふうに思いました。それと、その3つをどう分けるかというのは難しいところで、一番いいのは関心のあるところへ行ってもらおうというのが一番いいだろうと思うんですけども、そうになってしまうと入所待ちがなくなってしまうと、そういう問題もあるので、できればそうは思うんですけども、内容を絞らずにやったほうが、今、豊田委員が言ったように自由にどんなことでも。じゃあ、それに対して答えられるかどうかは別問題としてね。どんな意見でも出してもらえるとこのほうがいいのではないかなというふうに感じました。

○**馬場委員長** テーマを決めないとなんか出てくるかという、そういう不安もあったから、できるだけテーマを決めて絞ったほうが意見集約しやすいのではないかなということで、今回もやったんですけども。日程的にも、それこそ我々がいろいろ視察する中で、みんな苦勞しているなど。そういったところから、今回2日に絞ったわけでございますけれども、日程的なことを含めてですけども、加藤委員、どうですかね。何か御意見、反省はありますか。

○**加藤委員** 御意見が出ているんだけど、僕はこれがよかったなと思っています。やはり小グループに分けたのがね。ちょっと人数が多過ぎたかなという感じはしましたね。確かにしゃべる人は来る前から用意していたので、会場に来る前から、何を言おうか、これをしゃべろうと思って来ている人もいますので、それはそうだけど、いい機会ではなかったかなと思います。3グループに向けて、3つのあれができたというのはね。興味ないところもあったかもしれないけど、いいのではないかなと思います。

それから、ちょっと質問ですけども、御意見としてお伺いしますので、市のほうへ連絡しますというのは、まだ返していないですよ。

○**馬場委員長** まだ返していません。

○**加藤委員** これはいつやるのか、それとも僕らが言われたら個人的に言ってしまっているのか。どうなんですか。

○**馬場委員長** できれば、まとめた中で皆さんから一応確認した中で、市のほうへということにしたいというふうには考えております。

○**加藤委員** 時間は少なかったね。確かに。だけど切りがないかもしれない。

○**馬場委員長** 自由に分かれてというところも、こういうふうにグループにちゃんとある程度分かれたほうが、もう

ちょっとスムーズに行くのではないかということで時間短縮を含めて、「ここと、ここでやっていますから、行ってください」というと、なかなか時間をとるということでね。

○加藤委員 分かれたのはいいけど、本当に時間は短かったけど、僕はきつかったですね。何を聞かれるのかとか、いろいろ答えられなかったらどうしようかと、そんなことばかり考えて。

○馬場委員長 それぞれ担当委員会は1人です。それと今、資料のほうで事務局から訂正がありますので、お願いします。

○事務局 済みません。資料の訂正をお願いいたします。議会報告会の実施報告書の訂正となります。

20ページと23ページになりますが、会場が「健康福祉センター」と書いてありますけれども、ここが「新居地域センター」になりますので、それぞれ20ページと23ページ、真ん中のところと23ページ、「健康福祉センター」となっておりますので訂正をお願いします。申しわけありませんでした。済みません。

○馬場委員長 よろしいでしょうか。「健康福祉センター」に皆なってしまうので、新居会場の部分が20ページと23ページになりますので、訂正のほうをよろしくお願いします。よろしいでしょうか。渡辺副委員長、お願いします。

○渡辺副委員長 それでは、この報告書をどうするかということが1つ、それと次年度をどう考えたいかと。これは次年度決めればいいんですが、押せ押せになって、やるときがないので2日しかあいていないよというのが今回の事例ですけども、それではまずいと。大体春にやりましようとか、秋にやりましようというのは決めて、提言を次の方たちにしていけないといけないものですから、やり方についての相談というのが大きく分けて2つ。これと、今後のあり方をどうするか。

私の思いは、グループ分けはよかったと思います。こっちは会場は、それを阻もうとする人が来ていて、参ったなと思いましたがけれども、あれはよかったと思います。ただ、人数が多いというのは2会場しかできなかったのも、白須賀の人たちも鷺津へまとまって来ているし、そういうことで、ちょっと人数が多いなと思いましたがけれども、少し会場の数を広げるという必要はあるかなと思います。そのためにはあらかじめの準備が必要だということと、やはりこれも先進事例を見ると、地域会場と子育て支援なんかは各種団体対応なんですね。どちらかということ。それは振り分けたほうがいい。これは議運で相談してもらいたいですけれども、各種団体対応は主体は委員会ですね。地域対応はこれでいいと思うんですね。それを2つに分けて準備をしていく必要はあるかなというふうに思いました。

それから、グループ分けということなので、いずれにしても、新居の私のいたところは人数もそこそこだったし、いい意見が出たなというふうに思いますし、言いたいことはばらばらなので、テーマは設定しても、余り縛られずに地域の意見交換は、我々は緩くしてもいいのかなと。各種団体でやるときは、こういうテーマだよということはしっかり言ってやればよいと思いましたが。そんなふうなことで、まず、これの後ろのアンケートのまとめは、どっちに転んでもこれしかないと思うので、前段の部分ですね。これを見ると、まだ皆さん見ていないと思うんですけども、この中で、もう一回これを記録した人がこの中にみんないると思うので、この表現でいいかどうかというのを確認してもらう必要があるかなということと、ここのレジュメに私は書いておきましたけれども、回答や調査検討が必要な件はどうだろうか。検討の場合、どうやって検討するかということ、委員長が全体をまとめてやると言ったけど、当局に行くにも、過去の事例から言うと、当局に答えさせるべきものではないでしょうと、議会報告会というのは。だから、当局は答えませんと。議会で問題を整理して受けとめて、それでどうするかということの上で、最終的に議会としてもこう思うよと、どうなんですかと。これは一般質問でやったり、あるいは決算・予算の特別委員会でやったり、各委員会でやったりというふうなやっついていかないと、聞いたことをそのまま、「こうやって言っていたけど、どうするだ」と、それでは意味がないと思うので、これはどうするかということの整理をした上で、これを発表していかないといけないかなというふうな、私は受けとめをしたんですが、皆さん、いかがでしょうか。

○馬場委員長 楠委員、どうぞ。

○楠委員 基本的には各常任委員会から発表したテーマに沿って、意見交換をされた内容がまとめてあるんですね。これを一度、時間があるなら、常任委員会で持ち帰って、常任委員会ごとにまとめを出してもらうというのはいかがですかね。その方が常任委員会の皆さんも認識があると思いますし、対応も常任委員会マターで、まずは出していくことがいいのではないかなということと、この特別委員会の部分では、その他の部分についてはどうでしょうかというところを議論したらいかがでしょうか。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。それぞれ出された意見については、今ここに出していただいたところを記載させていただいておりますが、一度、楠委員の御意見では、各常任委員会で少し確認の意味も含めて検討していただければというふうな意見が出ております。2 常任委員長さんが見えますが、それについてはいかがですか。総務、建設の関係で。確認をするという意味も含めて、そういう形でいいですよ、楠委員。どちらかと言えば。

○楠委員 確認をして、ある程度こういう傾向のものが出たとか、まとめを先ほどの高校生のところではないですけども、二、三行ぐらいでまとめるのか、高校生だとかというところは、常任委員会マターでいいのではないかなというふうに思います。

○渡辺副委員長 例えば、3 ページ目の防災対策について、消火栓の点検結果を自治会に報告してほしいという意見が出されて、回答は「消防署に確認し、報告させる」となっているんですね。これをそのまま発表していいかどうかというのが、私はちょっと心配なんですよ。

○吉田委員 これは語尾を修正すればいいと思いますよ。「します」というように、私はそう思いますが。それで聞いて、議会として今回は報告会で意見も出てきたので、報告して上げておいて、できれば今後、自治会のほうに報告してやってほしいなど、こんな意見があったからということ消防のほうに伝えておけば。消防のほうでも。

○加藤委員 これは消防で点検するだよね。点検したら本来なら自治会に報告しておけばいいんだけど、していないので、また行ったときに悪いのがあったりとか、そういうようなことがあるので、わざわざこれを議会報告会だからといって、議会が調べてきて聞いてきて、それでまた議会が報告するというような手間はとらなくても、「ああ、そうか」というようなことで、そのような意見が出たら、市のほうから消防署の関係のところやってくれればいいかなと思ったんですが。そうこだわったあれではない。

○渡辺副委員長 私はこれを読んで、自治会に報告してほしいという意図は何なのかなと。消火栓は正常に動いて当たり前なんですよね。消火栓のホースとかそういうのも大体ついていると思うけど、そういう点検とか、そういうのも当たり前が当たり前で、異常なのはおかしいので、これはすぐ言う。あそこがおかしいよというのは消防署へ言えばいいと思うんです。全部こんな一々、消防署が回ったのを一々自治会に報告していたら、消防署も仕事が新しくできてしまうので、そんなことではなくて、いつも正常な状態にあるように、消防署は点検をしていますから、異常があったら教えてくださいと、これでいいと思うんですけれども、何かこのやりとりはおかしいなど。

○馬場委員長 ここの前置きがあるんですよ。訓練のときにそのホースを使ったら漏れたという。それなので、点検したなら、したということを事前に報告してほしいと。結局、新しいホースにかかわらず漏れたと。

○加藤委員 自分のあれからいくと、委員長も団長をやられてわかっていると思うけど、それこそホースの漏れというのは劣化していくものだから、実際に使ってみて、そのときに「ああ、これは漏れている」ということが初めて発見できることがあって、点検したときに一々ホースをやってもわからないですよ。そんなことをやったら、それこそまたホースを干して、その間にどうなるかと。ホースの漏れというのは非常に難しいと思います。点検のあれでは。そんなことを私は思いました。

○馬場委員長 これについては、今言った前置きがあって、訓練のときにホースの水が漏れていたと。穴があいていて、それでは点検にならないではないかということがあって、点検したならしたように自治会に報告してほしいという形になると思うんですけれどね。消火栓の点検はね……。

○加藤委員 消火栓の点検についての話じゃん、ホースの話じゃないですね。

○馬場委員長 それがホースまできていたんだよ。

○豊田委員 団によって違うのかもしれませんが、消防署員が全部見ているわけではないんです。消防団に管理を委任している部分がありまして、団も正直どこまで丁寧な点検をしているのかというのは、かなり差があります。その情報を自治会に報告してくれている団もあるようですし、報告していない団もあるようです。実は、私のところでも同じような問題がありました。消防署のほうに申し入れした経緯もあるんですけども。ただ、これは表現を気をつけないと。恐らくそういった問題がいっぱいあると思うんですよ。参加された方が全部委員会にはおられるはずですから、文面に合わせてチェックしないと、ちょっと大変かなという気がしますけどね。

○渡辺副委員長 そういう意味で、これは記録された方は一回読んでもらって、これはおかしいな。今話を聞くと、正確な話というのは全然違うんですね。消火栓ではないんです。消火栓に備えてあるホースが漏れるという話なので、全然話が違うんですね。そうすると、この回答も漏れるというのは水を通さなければわからないんだから、そんな点検なんかできやしないものだから。

○馬場委員長 一般市民は、もう消火栓になってしまっているんですよ。機具庫も含めて。我々、専門家とかかわかった人が言えば、それこそ消火栓という上へ出ているのと、それは回せば出るか、出ないかすぐわかるんですよ。問題はその中に入っている、機具庫に入っているホースとか管その部分なんですよ、市民の言っているのは。それだから消火栓と言ってしまうと、水が出る部分なのかなくなってしまいうんですけどね。

○渡辺副委員長 それだから、この内容を点検してもらおうと同時に、楠委員がおっしゃった、ちょっと時間はかかるけれども、委員会で受けとめる。すぐ当局に聞くのではなくて、最終的には聞かなければいけないと思うけど、そういう時間をとった中で報告しないと、何か中途半端な報告で叱られそうな気も。

○加藤委員 2つ目の、個人ビルの借用をする場合、あらかじめ市から連絡をとってほしいというのは、そうしたらどういう対応をすればいい。例えば、そのとおりに言ったんですよ。例えば、避難訓練の前には、市のほうから建物で避難するところは、「訓練があるからよろしくお願いします」というような一報を入れておいてくれればいんだけど、それがなくて「ちょっと戸惑う」と言うから、「じゃあ、市のほうから言っただけじゃないか」と、訓練がある場合ね。それをわざわざ議会を経由して、議会から報告するということはしなくてもいいのではないかなと思いますが、どうでしょうか。

○渡辺副委員長 議会として、そういうことは必要だと。議会としてはそういうふうな受けとめたけども、そうしてくれという要望をすればいいと、議会としてね。けども、ひょっとすると反論があるかもしれませんよ。そこはちょっとキャッチボールする必要があると思いますけどね。

○馬場委員長 中村委員、どうぞ。

○中村委員 「確認をせよ」と言っても、これだと誰がどういうふうに言った内容か、ちょっとわからないですよ。どこの場所で出たとか、誰が書いたのかという部分はわからないと私は思うので、「確認をせよ」と言われても、確認が誰がどこで何をという部分がわからないと。出た意見が、どこの場所を出て、その3人なら3人の中で話をまとめてくれというなら、出た部分だけでまとめてくれというなら話がわかるんだけど、こうやってだ一つと出されてしまうと、どこの場所を出て、誰がそれをまとめているというのわからないし、そういうふうの確認するなら、そういうふうな分け方をして、その場所を出た内容を3人なら3人で話し合うという形の確認方法しかないように私は思うんだけど。ただ、「出されたものを確認をせよ」と言われても、誰がどこで、何がどういうふうに出たかというの、具体的にわからないと思うんですがね、私は。そういうふうに出すべきではないかなと私は思います。

○馬場委員長 各グループではわかっているんですね。記録係が……。

○中村委員 記録係の名前でも書いてくれれば、場所はわかるけれども、このままでは記録係の名前も入っていないので、誰が出したものというのはわからないね、実際は。

○加藤委員 答えない人もいるしね、名前を言えと言っても。

○馬場委員長 違う、違う。担当のほう。こっち側の。

○中村委員 それは外へ出さなくてもいいんだけど、ある程度その中でもむ場合には、3人なら3人で出た場所で、これがこういう意見でいいかという確認を、その3人ですべきではないかなと私は思うんですがね。全体でやれといっても、なかなかわかりにくいという形の話になってしまうので。

○渡辺副委員長 書けば書いてもいいですけど、9人の中には必ず1人いるんですよ。そういう分け方をしたので。6人か。6人の中にはいるわけだね。これを俺は聞いたなという人が、6人の中に誰かしらいるんです、委員会の中で。それでもわからなければ事務局へ聞けば……。

○加藤委員 これは報告する前には、3人で相談して、こういうことを出しますよということはやっていますか。やっています。書記と司会する人は違うんだから。

○馬場委員長 神谷委員、どうぞ。

○神谷委員 私も書記をやったんですけども、まず自分が記憶に残っている部分を書き出して、後は録音を聞かせてもらって、つくったものを、あと一緒にグループだった議員さん2人に確認してもらって、「これでいいですね」ということで提出させていただいています。

○中村委員 全部のところ、そういうふうな形でやれという、ある程度打ち合わせがあったのかね。

○馬場委員長 必ず、それぞれには各常任委員さんがいて、読んでいただければ、その中では確認はできると思います。その回答部分については、できないところがあるので。どうぞ。

○中村委員 だけど、そこで発言があったのと、ここへ書かれたのが、同じ方向の意味は書かれているが、これが本当に自分らのところで出たものかどうかというのがわかるのかね。

○馬場委員長 ほかの人はわからないですよ。

○中村委員 そういう意味では、出してくれたほうが、外へ出すのは別にしても、確認するためにはある程度出してもらって、意見のできているところはいいんだけど、できていないところは、そういうふうに具体的にしていないと確認のしようがないじゃないかなと私は思いますけどね。

○馬場委員長 書記は僕と神谷委員と、豊田委員だね、おぼとは。みんなやっているんですよ。新居は、書記関係。そこで入っているの、各常任委員会さんで、自分の担当のところの出た部分について、文言だけ確認していただければいいかなというふうに思うんですけども。

○中村委員 書記も大変だと思いますがね、まとめ方がいろいろ。さっと聞いたものをまとめなければいけないので、大変だと思うけど、やっぱり、これを見て自分のところで出た話かどうかというのは、ちょっと、どれがどうだって、それらしいような雰囲気ではわかるんだけど。

○馬場委員長 ほかの会場で出た部分については、中村委員はわからないはずですよ。それをそれぞれ出た人たちが、自分たちの委員会の部分を、出たところだけでいいですよ。自分のわかったところだけで。

○中村委員 出たところが、どこからどこまでとか、これがわかる、あなたは。逆に言うと。話の内容が具体的にわからないんじゃないか。

○馬場委員長 そこへ誰が言ったというのも……。

○中村委員 言った、言わないは別にしても、この話は、この新居の第1で出たのか、第2で出たのか、第3で出たのかという話ぐらいは、具体的に書いてくれてもいいじゃないかなと私は思うんですが。

○馬場委員長 わかりました。ちょっと暫時休憩とします。

午前11時39分 休憩

午前11時52分 再開

○馬場委員長 それぞれの各会場からの報告について、今お手元の実施報告書にまとめさせていただいております。内容につきましては、再度、各常任委員会、それぞれテーマが与えられておりますので、現在の報告書に載っている部分について、各常任委員会で確認をしていただきたいと思います。できましたら、この議会開催、3月議会の開催中に結論を出していただければと考えておりますのでよろしく願いいたします。

今の報告書のまとめについてはよろしいでしょうか。確認をしたいと思いますが。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 それでは、そのような形にさせていただきます。

今後の報告会のやり方について、少し御意見をいただければというふうに考えております。今回、2日間グループ分けという形でさせていただきましたが、いろいろな御意見をいただいておりますので、それを含めて次年度、ある程度時期的なもの、内容的なもの、これは少し議会運営委員会のほうでもんでいただいて、あと実行部隊をどうするかというふうなところも、またこういった広報広聴特別委員会を新しくつくった中でやるのかどうか。その辺についても少し御意見をいただければ。余り時間はありませんが、次回に向けての意見調整ということで、少し御意見をいただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。豊田委員、どうぞ。

○豊田委員 既にせんだって議会運営委員会から報告されておりますとおり、来年度の議会報告会については、議会運営委員会が主体となって企画しますと。ただ、実際に実施に向けては別組織をつくることも考えるというところまでは出されていますので、それについては我々が触れる必要はないと思っています。あくまで、例えば、この1年間の経験論から、こうしたほうがいいのか、こうすべきだという提言部分があれば、出す範囲であるというふうに考えますけれども。

○馬場委員長 今回の報告会を含めて、これから報告書が出た時点で、少し次年度に向けた提言、今、豊田委員が言われたように、提言をすることができればというふうに考えておりますが、また最終的な広報広聴特別委員会の中で、報告書ができた後に、まとめた御意見を皆さんからいただいて、そこで確認し、提言をあわせて行っていきたいというふうに考えております。今後の予定としては、恐らく11回、次ぐらいでほぼ我々のほうの部分については、やる時間がないかな。新年度のメンバーまでにできる方向でなくて、あと、最大やっても2回ぐらいの間でまとめればと思っていますけれども。

○豊田委員 回数は何回やるかはわかりませんが、4月いっぱいという手もあるわけですから、それを考えれば、5回でも6回でも不可能ではないかと。

○馬場委員長 わかりました。回数についてはね。特別委員会の開催回数は、ただ、内容について少し報告書ができた時点で、皆さん方に一度お諮りをさせていただきたいと考えております。できれば提言も含めて、副委員長どうぞ。

○渡辺副委員長 時間があれば、こういう話をしたらどうかなと思って、私は題材に挙げさせてもらったんですが、豊田委員がおっしゃるように議運でやりましょうということで、そういう話になっているので、議運のメンバーも大勢いらっしゃるので、春がいいのか、秋がいいのか、はたまた選挙のときにはどうするのかということは、基本的なスタイルは考えたほうがいいかなと。そういう意味で議運に参考になるような意見があればもらって、このメンバーで先進視察も行っているものですから。そういう意味で、そういうことで。もっと言えば、神谷委員がおっしゃった組織の問題ね。議会報告会をどういう組織でやるのかということで、それは私は議運の委員長にも先進事例の話を出して、例えば、長野の松本とか塩尻を見に行ったときには、基本条例がまずあって、基本条例の推進状況をチェックするのと、もう一つは、報告会を中心にした組織みたいなものを2つつくって、その中で、こっちで議会報告会をやりなさいと。ただ、基本だけは議運でちゃんとやるというようなことで、そういう組織をどうするかということから入っていかないと決まりませんねという話はしかけていて、これは議運でしっかりもんでもらおうと思っていますので、議会報告会について、このメンバーで議運の参考になるような意見があれば出していただければと、そんなことを思ったということでございます。時間がないので。

○馬場委員長 今、副委員長のほうから方向性のほうを少しお話ししていただきました。きょうは高校生議会の意見交換会の反省並びに御意見と、また議会報告会における全体的な報告内容について御意見をいただきました。

時間のほうも参りましたので、今後のことにつきましては、報告書のまとめが1つの区切りになってこようかと思っております。そんな中で、我々広報広聴特別委員会として、次回に向けた報告会等の内容についての御提言ができればというところのまとめまで、何とかしていきたいと考えております。

全体を通して、何か御意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。そんな方向で、この後、進めさせていただきますので。

なければ、以上で第10回の広報広聴特別委員会を閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 それでは以上で第10回広報広聴特別委員会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

〔午後0時00分 閉会〕

湖西市議会委員会条例第28条第1項の規定により署名する。

委員長 馬場 衛